

SB58報告： 適応に関する議論



特活)「環境・持続社会」研究センター (JACSES)
気候変動プログラムリーダー/事務局次長 遠藤理紗
endo@jacses.org

団体・自己紹介

<「環境・持続社会」研究センター（JACSES）とは>

- 1993年設立
- 持続可能で公正な社会の実現を目指し、幅広い市民と専門家の参加・協力のもと、調査研究・政策提言・情報提供等を行うNPO/NGO
- 現在、以下のプログラム・プロジェクトを推進
 - ・気候変動プログラム
 - ・SDGs（持続可能な開発目標）・SCP（持続可能な消費生産）プログラム
 - ・持続可能な開発と援助プログラム
 - ・持続可能な社会と税財政プログラム
 - ・地域活性化・地方創生プロジェクト
 - ・NPO・NGO強化プロジェクト

遠藤 理紗 JACSES気候変動プログラムリーダー／事務局次長

津田塾大学卒、マンチェスター大学修士課程修了。保険・エネルギー関連の民間企業勤務を経て、2014年JACSESスタッフ。気候変動・SDGsに関する政策提言、普及啓発等を行う。Climate Action Network Japan役員、ESD活動支援センター企画運営委員、SDGs市民社会ネットワーク事業統括会議進行役、2023年C7(Civil 7)気候・環境正義ワーキンググループ共同コーディネーター、W20(Women 20)日本デリゲート等も務める。

構成

1. UNFCCC第58回補助機関会合（SB58）概要
2. SB58での適応に関する議論
3. G7 気候・エネルギー・環境大臣会合コミュニケ
4. COP28に向けて

1. UNFCCC第58回補助機関会合(SB58)概要

2023年6月5日～15日にドイツ・ボンで開催。

- ・サイモン・スティルUNFCCC事務局長：WMOやIPCCによると、気候変動は加速。Global common goodに向けた団結を。締約国がパリ協定のために共同でコミットメントを提示し、実施が順調であることを世界に見せる良い機会。
- ・締約国からはCOP27の成果として、緩和作業計画（MWP）やロス&ダメージのための資金アレンジメント・基金、公正な移行作業計画等に合意できたことが挙げられた。
- ・議題やイベントが多く、協力して効率的に進めていく必要性が強調された。（各国交渉官が掛けもちのケースも多く、次々と増える 이슈・議題の効率的運用も課題のように見受けられた。）



2. SB58での適応に関する議論

適応に関する世界全体の目標（GGA）に関するグラスゴー・シャルム・エル・シェイク作業計画（GlaSS）

- パリ協定第7条で世界全体の適応目標を設定「1 締約国は、第二条に定める気温に関する目標の文脈において、持続可能な開発に貢献し、及び適応に関する適切な対応を確保するため、この協定により、**気候変動への適応に関する能力の向上並びに気候変動に対する強靱性の強化及びぜい弱性の減少という適応に関する世界全体の目標を定める。**」
- GGAの概念・評価手法についての理解やGSTにおけるGGA進捗評価などについて詳細が議論されておらず、COP26で2年間のGlaSSを設立し、年4回ワークショップを開催して議論することに合意。
- 2022年には計4回、2023年に2回WSを実施（6回目は6/4・5にボン市内の別会場で開催）。第7回は7/31～8/2に開催が決定。その後第8回WSを経て、COP28にて2年間にわたる作業が終了予定。
- [2022年WSのサマリーレポート](#)（2022年11月7日）：1年間の実施活動、GlaSSの目的、第1～4回WSの概要およびサマリーレポート。
- 2023年[第5回サマリーレポート](#)、[第6回サマリーレポート](#)も公表。

2. SB58での適応に関する議論

- 昨年のCOP27では2022年のGlaSS作業進捗の確認・2023年の作業内容検討とともに、途上国から提案のあったフレームワークの設置について議論し、2023年COPでのGGAのためのフレームワーク採択に向け議論を開始することが決定していた。
 - パラ9：フレームワークはGGAの達成及びその全体的な進捗評価につながるもの。
 - パラ10：フレームワークは、特に以下の4つの要素を考慮に入れる；(a) 適応サイクルの各段階、(b) 優先テーマ、(c) 分野横断的要素、(d) 情報源。
- 今回（SBSTA item5/SBI item11）は、フレームワークに入れ込むべき事項等について議論。SB58で提出された締約国の意見や[informal note](#)に留意しつつ、GlaSSの残りのWSでの議論や追加提出される意見等を踏まえ、COP28での検討・採択に向けて審議を継続。[Draft conclusion](#)



2. SB58での適応に関する議論

- パラ7には今回検討したCOP28での決定書案の構成要素が記載された。

7. The SBSTA and the SBI considered the possible structural elements, outlined below, for a draft decision for consideration and adoption by the Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Paris Agreement at its fifth session (November–December 2023):

- (a) Preamble;
- (b) Acknowledgement of progress and conclusions under the Glasgow–Sharm el-Sheikh work programme on the global goal on adaptation;
- (c) Establishment of the framework for the global goal on adaptation;
- (d) Elements of the framework for the global goal on adaptation:
 - (i) Purpose;
 - (ii) Dimensions;
 - (iii) Themes;
 - (iv) General and cross-cutting considerations;
 - (v) Enabling conditions (option 1) or means of implementation (option 2);
 - (vi) Reporting;
 - (e) Overarching targets and specific targets, indicators and metrics (option 1) or shared adaptation priorities under the framework for the global goal on adaptation (option 2);
 - (f) Link to the global stocktake;
 - (g) International cooperation and the role of stakeholders;
 - (h) Follow-up work (option 1) or no section on follow-up work (option 2);
 - (i) Finance and budgetary provisions (option 1) or no section on finance and budgetary provisions (option 2).

2. SB58での適応に関する議論

グローバル・ストックテイク（GST）第3回技術的対話

- ・ テーマごとに「次に何をすべきか・重要なメッセージ」に焦点を当て議論。今回で技術的対話が終了、統合報告書を公表（冒頭で9月初旬と言及）。
- ・ 適応セッションでの参加者からのインプット：maladaptationの最小化/回避、実施手段とのリンク（パリ協定9・10・11条）、国別適応計画の重要性、適応の政策サイクル（リスク評価/計画立案/実施/モニタリング・評価・学習）に沿った優先分野の特定、適応策の実施における短期的・長期的な課題の評価、緩和策とのシナジー・緩和野心と適応コストの関係性、Nature-based Solutions (NbS)・Ecosystem-based Adaptation (EbA)、資金・データ（年齢別・ジェンダー別等）のギャップ・・・



2. SB58での適応に関する議論 グローバル・ストックテイク (GST) 第3回技術的対話

① Increased adaptation action and efforts to avert, minimise and address loss and damage are urgently needed, particularly for those who are least prepared for change and least able to recover after disasters. . . . ② Collectively there is increasing ambition in plans and commitments for adaptation, but there also remains an implementation gap, in that plans are implemented inadequately, unevenly and incrementally.

UNFCCC GST TD1.3 Roundtable 2

Adaptation including Loss & Damage

emerging messages for COP 28

- Context Specific
- Loss & Damage Adaptation
- Finance Gap & Access
- Inclusivity
- Science Gap Data, Metrics

③ When adaptation is informed and driven by local contexts and priorities, both the adequacy and the effectiveness of adaptation action and support can be enhanced and can promote transformational adaptation. . . .

Support for adaptation and funding to address loss & damage can be rebuilt scaled up from expanded and innovative sources, and financial flows can be aligned with climate science.

UNFCCC GST TD1.3 Roundtable 2

JUNE 2023 SB58, Bonn

Graphic Recording by Stephanie Heckman & Hazel Nurley

Stephanie Heckman @stephanieheclol Hazel Nurley @hazelnurley

3. G7 気候・エネルギー・環境大臣会合コミュニケ

P.32 III. Climate and Energy “Enhancement of resilience and support for climate actions especially for the most vulnerable people ” (レジリエンスの強化、最も脆弱な人々等に対する気候行動の支援)

83. Adaptation (適応)

84. Loss and damage (損失及び損害)

85. Support for the implementation of the Paris Agreement (パリ協定の実施に向けた支援)

86. International collaboration on subnational climate actions (地方の気候行動に関する国際連携)

87. Climate finance (気候資金)

88. Green Climate Fund (緑の気候基金)

89. Adaptation finance (適応資金)

90. Funding arrangements for responding to loss and damage (損失と損害に対応するための資金アレンジメント)

91. Private sector’s role to meet adaptation needs and to contribute to averting, minimizing and addressing loss and damage (適応ニーズを満たし、損失と損害の回避、及び最小源にし、並びにこれらに対処するために貢献する民間セクターの役割)

92. MDBs

附属文書 “G7 Inventory on Climate Disaster Risk Reduction, Response and Recovery” (G7気候災害対策支援事例集)

※詳細→[G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合ウェブサイト](#)

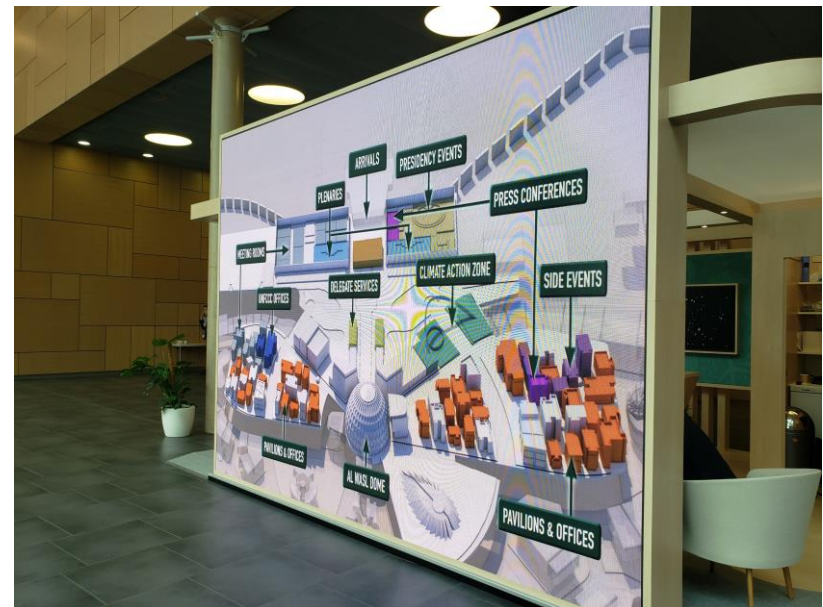
4. COP28に向けて

- 第1回GSTは技術的なフェーズからCOP28に向け政治的フェーズへ。GSTの成果物とその内容が各国の政策や取組の方向性に大きな影響を与える。
- G7でも言及されたように、パリ協定第2条1項cに沿った資金の流れを加速させることを重要視。
- GST技術対話のMoIセッションでも、資金支援拡充は多くの途上国が言及。COP26で設置されたロス&ダメージに関するグラスゴー対話も昨年に続き開催されたが、依然として先進国と途上国間で意見の隔たりが残る。なお、ロスダメについては、資金源に加え、資金へのアクセスやカバーする範囲、既存の資金リソースや枠組みとの連携等、検討すべき事項が非常に多い印象。



4. COP28に向けて

- G7でも記載されたように、日本やEUなどはGSTで「all GHGs, all sectorsが削減対象」と言及。Non-CO2 GHG削減のための動き([Methane finance sprint](#)等)も加速。GSTを機に、世界全体で全てのセクターやあらゆる温室効果ガスの排出削減・野心向上をどれだけ強化できるかも重要。
- COP27で設立が決定した公正な移行に関する作業計画(JTWP)では、適応も要素として挙げられた。(Equalityやwell-beingといった要素も。)
- 隔年透明性報告書(BTR)の提出等、透明性の担保やそのためのキャパビル支援の必要性も指摘された。(GST技術対話で日本はBTRをtimely mannerで出すことに言及。BTRは第2回GSTへの重要なインプット。)





ご清聴ありがとうございました

- 「気候変動に起因する被害を最大限防ぐための「日本の施策と国際発信」に関する提案 ～G7広島サミット（主要国首脳会議）を機に～【資料付き】」
<http://jacses.org/report/2108/>
- JACSESウェブサイト (<http://jacses.org/>)
- JACSES気候変動/SDGsチームインスタグラム (jacses_climate_sdgs)